



## Implant Direct とNobel Biocare のコラボレーション

埼玉県 オクヤマ歯科医院 奥山 雅人

インプラテックス社から2016年10月にインタラクティブインプラントが日本発売となった。本システムはKaVoKerrグループ(ダナハー社)に属するImplant Direct社から2014年より販売されており、各インプラントメーカーシステムを研究し、より良いシステムとして改良されており、ユーザー、そして患者様にはとても有益なシステムである。HP上にて動画などの手術アニメーションなどを公開しており、現代のインターネット社会に対応しているメーカーだと思う。

筆者は以前よりNobel Replace Tapered, Nobel Replace CC, Nobel Activeインプラントシステムを使用しており、インタラクティブインプラントはImplant Direct社本国HPにて互換性を知った3年前より個人輸入にて使用している、使いなれたシステムである。今回、インプラテックス社から販売されるようになった事はとても嬉しい事である。Implant Direct社では様々なインプラントを販売しているが、なかでもインタラクティブインプラントを上顎前歯部などの審美領域、特に抜歯即時埋入に有利だと考えて使用している。

### 主な優位点

1. カuttingグループ、バットレスダブルリードスレッドを用いたテーパードボディデザイン(抜歯即時埋入時、初期固定獲得に優位)。
2. 接合部はインターナルヘックスコニカルコネクション(Nobel Replace CC, Nobel Activeインプラントと共通)。
3. 軟組織マネジメントに有効なエマージェンスプロファイルを形成するコンケーブ形状。

Implant Direct社からは純正の外科キットが販売されているが、筆者は、手術シミュレーションはNobel Clinicianにて行い、外科ドリルキットはNobel Biocare社Replace用外科キットを用いてドリリング、フィクスチャーはインタラクティブを埋入した。上部構造はノーベルプロセラジルコニア・アバットメントにて補綴物製作といった流れで治療を行っている。

### 〈症例〉

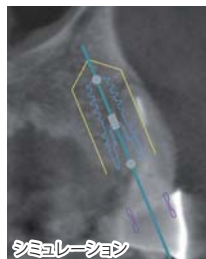
患者：70歳、男性

右上3番部の腫脹を主訴に再来院。歯根破折をしており、保存不可能と診断、抜歯後の補綴処置として患者様はインプラント治療を選択された。そして、患者様の審美性に対する要求は低かったが外科処置回数の軽減を御希望され、抜歯即時イン



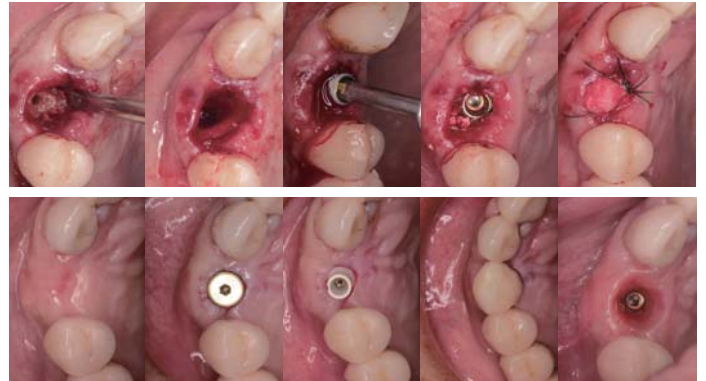
初診時口腔内写真

プラント埋入を選択された。筆者が抜歯即時埋入を行う際に気をつけている事は、全身疾患に問題がない事、根尖に病巣がない事、既存骨が十分にある事、などであり処置中に特に心がけている事は抜歯時に唇側骨を破壊しないような愛護的抜歯処置を行う事である。抜歯窩口蓋側にファイナルドリルまでドリリングを行い、人工骨を補填、再度インプラントスペース確保のために無注水下でファイナルドリルにてドリリングを行った。インタラクティブ4.3mmD 13mmLを、ハンドドライバーにて方向に気をつけながら歯肉縁下4mmの位置に埋入(唇側骨が薄く、口蓋側骨が緻密なため唇側に振られやすいので口蓋側骨に押し当てるように)した。良好な初期固定35Ncmを獲得でき、付属のカバースクリューを装着し、コラーゲンスポンジを置き、4-0ナイロン糸にて縫合し固定、1次手術を終えた。粘膜および骨造成部の治癒期間4ヶ月待ち、2次手術後テンポラリーアバットメントPEEKを使用しプロビジョナルを口腔内にて製作、適正なエマージェンスプロファイルを付与し、咬合および歯冠形態のチェックを行った。



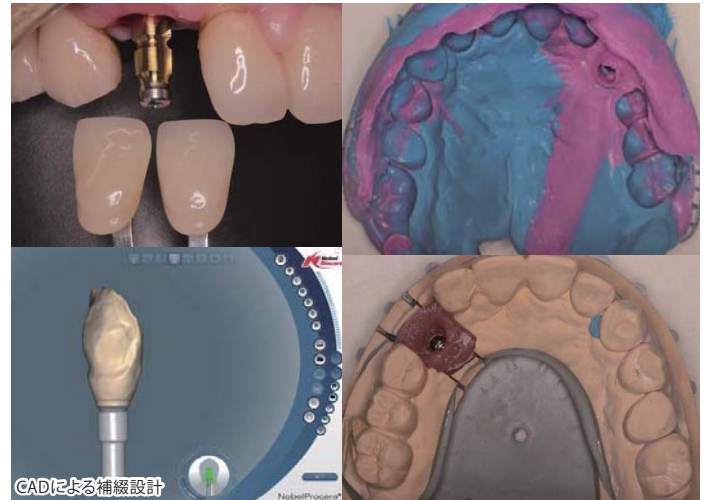
シミュレーション

プロビジョナル装着1ヶ月半後、患者様より形態及び咬合について了承が得られたので最終補綴物製作に入った。印象用コーピングはNobel Biocare社NA ctコーピングクローズトレイ用CC Rpを使用し、印象採得した。技工サイドでは模型製作、Waxup、スキャン、Nobel



プロセラFCZアバットメントクラウンにポーセレンを築盛して製作して頂いた。上部構造はスクリーリテインとし、角度付きスクリー・チャンネルにてアクセスホールを口蓋側に設定し、35Ncmにて締結し装着した。現在、装着後3ヶ月が経過し安定している。今後、定期的なメンテナンスを行いながら、咬合、スクリー緩み、骨の変化などのチェックを行っていく予定である。

今回、Implant Direct社製品とNobel Biocare社製品を使用した治療を行った。コネクションの規格が同じもので行え、患者様に有益な治療であった。今後、Implant Direct社にはメーカーの枠を超えた統一規格のソリューションの開発・販売に期待したい。



CADによる補綴設計



角度付きスクリー・チャンネル

AURA DT.前嶋智洋氏製作

ドライバーとスクリーの接続状態



術後